

令和5年度 あみ未来塾 卒塾レポート

2番

笥田 聡

テーマ 阿見町をこんなまちにしたい

タイトル

『阿見町を「桜色」で染める！ 大切な人への愛があふれるまちへ
～ 住民共創プロジェクト「阿見❀さくらの道」 』

< はじめに >

2023年10月、阿見町は人口5万人を達成しました。新たな住民を迎え、まちづくりに活かせるシンボルが求められています。このレポートでは、まず阿見町の現状と課題を共有し、「桜」をシンボルとする住民共創プロジェクト「阿見❀さくらの道」を提案します。このプロジェクトは、阿見町を「大切な人への愛があふれるまち」として全国にPRし、地域活性化と住民の幸福度向上を目指します。ぜひご覧の方にもご賛同をいただき、一緒に共創していただけたら幸いです！

< 阿見町の課題 >

- 町内の共通シンボルがなく、特産品、名所、特徴が行政や住民、関係者の中で定まっていない
- 「阿見町らしさ」が曖昧で、住民が自信を持って「阿見町はこういうまちです！」と言いづらい
- 住民が地域コミュニティや地域活動に気軽に参加しづらい
- 教育機関や民間企業との交流やまちづくりへとつながる連携が不足している
- 阿見町の持つ歴史や文化を次世代に継承していく取り組みが不足している

< 目指す阿見の未来 >

- 確立された「阿見町らしさ」：住民が誇りを持ち、愛着を感じるまちになる
- 住民・行政・民間企業・教育機関による活発な域内交流：移住者や定住者が増えるまちづくり
- 温かな地域文化：大切な人を大切にす文化が根付き、安心して楽しく暮らせる環境が整う
- 共通認識に基づいたまちづくり：住民と行政が共通認識を持ち、共創によりまちづくりを進める
- 歴史・文化の継承：阿見町の持つ歴史や文化を次世代に受け継ぎ、誇れるまちになる

< 住民共創プロジェクト「阿見❀さくらの道 Ami Sakura Av.」 >

- シンボル設定：桜&桜色
 - ・ 阿見町の桜は町外も含めた近隣の住民が観覧に来るほど有名
 - ・ 阿見町内の組織や施設を踏まえて、桜に意味を込めていく
 - 予科練平和記念館、陸上自衛隊武器学校「防衛」
 - 茨城大学農学部「農・食」、茨城県立医療大学、東京医科大学茨城医療センター「医療」

※「サクラ」は1985年（昭和60年）に町の木として設定されています



予科練制服ボタン「桜に錨」

○ 具体的な取り組み

- ・「阿見❀さくらの道」の公式化 → プロジェクトの概要、ロゴ、理念を定める
- ・住民、行政、民間企業、教育機関が共創できる体制をつくる
- ・予科練平和記念館～さわやかセンターまで約3kmの歩道を桜色に塗装する
- ・桜並木沿いに阿見町の歴史や桜の見どころを紹介する案内板を設置する
- ・桜を活用したイベントを開催する（ウォーキング、ライトアップ、写真コンテスト）
- ・SNSを活用し、桜をテーマに阿見の魅力を発信する
- ・阿見町の持つ歴史や文化を調べ、記録し、住民に広く伝える
- ・「大切な人への愛」に基づく住民の幸せを支える政策を推進する
（子育て支援、高齢者支援、地域活動支援）

< 参考事例 >

- ボストンのフリーダムトレイル（参考：右図）
「赤い線に導かれて、アメリカ建国の歴史を辿る」
レンガや赤い塗装でひとつなぎの道が設定され、
歴史的な建造物の保護や歴史の継承が行われている



フリーダムトレイル | ボストン

< 取り組みの結果、期待される効果 >

- 住民交流促進とコミュニティ活性化
 - ・住民活動の活発化、良きアイデアの創出
- 阿見町らしさ（アイデンティティ）の確立
 - ・地域愛（シビックプライド）の醸成 → 関係者の幸福度が向上
 - ・阿見町は「桜のまち」として認知されるようになる → 背景の物語を理解する人も増える
 - ・阿見町の歴史と文化が継承される
- 観光客の増加 → 飲食店や物産店、体験施設の売上増加（経済効果） → 新規事業の創出

< プロジェクト成功のための取り組み >

- 住民理解：説明会やワークショップの開催、アンケート調査 → 住民の理解と協力を得る
- 資金調達：協賛企業の募集、クラウドファンディング、行政予算の確保

< まとめ >

阿見町の住民共創プロジェクト「阿見❀さくらの道」は、町内の活性化と住民の幸福度向上に大きく貢献する可能性を秘めています。阿見町を「桜色」で染めるプロジェクトをきっかけに、住民と行政のみならず、教育機関や医療機関、民間企業もお互いに協力し合いながら、大切な人への愛があふれる温かな阿見町へと発展させていきましょう！